



Sustainable Society Design (SSD) 3rd Year High School



2023年4月11日 SSD（高校3年生）授業「新しい学年 リサーチブック完成に向けて」

資料：ワークシート No.1

この講座も最後の一年となりました。生徒たちは、これまでに学んだ知識や経験から、一冊のリサーチブックを完成させる予定です。



今日の講座

●春休みの経験から

訪ねた街やしたことを共有する

●リサーチブック原稿の統合

それぞれのセクションを統合させる

●ワークシート

それぞれのセクションを読み、気付いたことを記入する

教員の春休みより

（帖佐香織教諭）教育開発センターの仕事に関わっていて、その事務室を心機一転模様替えしました。講座のテーマであるSDGsを意識してなるべく廃材を使うなど気を配りました。そこで感じたことは、こういった身近な小さな改革も、周りの人と相談しながら気に入った空間を作りあげるといった点でまちづくりにとっても似ているということです。

また、この休み中に『北欧のパブリックスペース』の著者のデビット・シムさんに会う機会がありました。そこでお話をして本の解説を聞くうちに、パブリックスペースというと公共空間の大きな整備を想像しますが、個人で道端に椅子を出したり空き地にスタンドを立てたり、軒先で野菜を売ったり、というちょっとした仕掛けで人は集まり心地の良い場所ができるという大きな気付きでした。自分たちでできることがいっぱいあるし、日本でもたくさんの方が可能性が秘められていると感じることができました。

（城村怜教諭）教務センターの仕事に関わっているので、春休みはとても忙しい時期です。時間割、クラス替え、教科書の準備といった新年度に向けた仕事に追われていましたが、こうして授業が始まってようやくやり終えたことを実感できるようになったところでした。

リサーチブックの原稿を統合する

Teams にそれぞれの原稿を集約し、共有してチェックします。各自 Teams に入り作業を終えたら、ほかの人の原稿に目を通し早速気が付いたことをメモしていきます。書き方のくせや原稿の統一感をもたせるようにすることも忘れないでください。



2023年4月18日 SSD（高校3年生）授業「新しい視点 町をすみこなすー大月敏雄」

資料：ワークシート No.2

リサーチブックの統合、そして修正の作業を行う生徒たちですが、今日の講座では、まちづくりの新しい視点を得るために動画をみました。



今日の講座

- リサーチブックの原稿から
気付いたことを共有する
- 新しい視点
町をすみこなすー超高齢者社会の居場所
づくり
大月敏雄
(東京大学 (建築学専攻/高齢社会総合
研究機構/復興デザイン研究体))

リサーチブックを統合、気づきを共有

公共交通における地下鉄やレギオカルテの取り上げ方についてアドバイスがありました。また、実際に存在するものを紹介する以外にも、もし実際に存在すればこういった効果があるといった検証もあればいいのではという意見もありました。

町をすみこなすー超高齢者社会の居場所づくり 大月敏雄

人口減少は社会における共通する大きな問題です。そこで「居場所」をテーマに、人びとが求めるものは、人生のステージに合わせて、さまざまに変遷していくことに注目します。居場所づくりのユニークな事例がいくつか紹介され、これらの事例はこれからの住まいのあり方のヒントを与えてくれました。一方で、誰がどういう家に住むかということが、社会の中で誘導されるような構造があるということにもハッとさせられます。

さまざまなキーワード

居場所/増築の楽しさ/地域包括ケアシステム/住み続けられる/住民の寛容さ不寛容さ
/住宅の循環/近居/G ターン/コミュニティケア型仮設住宅/そこに集まる必然性

さまざまな世代が分断して住むような街ではなく、多様性を受け入れる街、そしてそこに住む誰もが自然と集まることができる「居場所」づくりをめざすような、これからの社会問題解決にもつながるお話でした。

新しい視点をリサーチブックにも活かす

さまざまな立場の人を例に居場所を検証してみるマトリックスも考えてみました。さらに今日の動画を参考に、リサーチブックの修正点を整理し、改めて作業に取り掛かっていました。

2023年4月25日 SSD（高校3年生）授業「リサーチブック作業①」

資料：ワークシート No.4

今日の講座で生徒たちは、リサーチブックの統合と修正の作業を行いました。



今日の講座
●リサーチブック作業
パートに分かれて全体を見直す

前回の課題で、リサーチブックにおいて各々が気になることをワークシートにまとめたものがあります。それをまず読み、そこから以下の手順で作業を進めました。

(1) パートごとに修正 すべての修正すべき箇所を洗い出す

(2) パートごとに校正を練り直す 削除項目を見直す

⇒良いものをつくるという意識の共有が大切！

最後に今日の作業をふまえて各パートで反映させました。その結果、全体を見直し、気になることはしっかり指摘しあいます。正直に意見を言い合える関係を築くことは良いものを作り上げる上でとても大切な要素です！

教員のアドバイス

自分たちが好きだと思えるものを作りましょう。

じっくり目を向けて、この内容で十分なのか、本当に住みやすい街になるのか、説明は適切か、といった疑いの目を向けることで内容が厚くなります。



2023年5月2日SSD（高校3年生）授業「新しい視点 ソフトシティー David Sim」および リサーチブック作業②

資料：ワークシート No.4

新しいまちづくりの視点第二弾、今日は書籍から考えます。

今日の講座

●ソフトシティー

David Sim

●リサーチブック修正

前回からの続き



David Sim 著『ソフトシティー』（2021年鹿島出版会）

人間の街:公共空間のデザインの著者であるヤン・ゲール理論を実践的に解説した書です。ヤン・ゲールの「人間の街」の理念を実際にどのようにして実現すればよいのかといった内容です。著者のデビット・シムさんは帖佐先生も春休みに会ってインタビューした方でもあります。

ソフトシティーのキーワード

ソフトシティーとは/街のデザイン/人々の集まる仕掛け/人と人がつながる仕組み

「ソフトシティー」は、著者のデビットさんがまちづくりにおいて大切にされているコンセプトです。ソフトシティーの可能性を考えると、生活の質の向上が期待でき、そこには時間やその使い方など、生活の質の向上に人と人の繋がりが最も大切だと書かれています。また、この書籍から、「ソフトシティー」のイメージを膨らませ、どのような都市が魅力的なのか、



大きなスケールでのまちづくりだけでなく小さなスケールでのまちづくりについても考えてみましょう。そしてそれぞれが持ったイメージを持ち寄り、リサーチブックの修正に取り掛かりました。新たな視点を大切にしながら、そもそものリサーチブックのテーマを見失わないようにします。生徒たちは、いつも活発に意見交換をしている様子がとても印象的です。

2023年5月9日～6月6日 SSD（高校3年生）授業「新しい視点 欧州ランドスケープ探訪」およびリサーチブック作業③

資料：ワークシート No.4～No.6

新しいまちづくりの視点第三弾として、動画をみました。ランドスケープ設計者の立場の方が以前とはまた違った視点で、いくつかの都市を解説している動画です。

今日の講座

- 欧州ランドスケープ探訪
中島悠輔（ランドスケープ設計士）
- リサーチブック修正
前回からの続き



● 欧州ランドスケープ探訪 中島悠輔（ランドスケープ設計士）

中島さんはベルリンのランドスケープ設計事務所 Mettler Landschaftsarchitektur に勤務されています。旅を通して自然に近い生活空間に興味を持ち、東京大学・大学院にて生態学・都市計画学を学びランドスケープという言葉に出会われています。今回の動画では、ヴェネチア、ハンブルク、パリを専門的な視点から解説されています。

【ヴェネチア】5～6世紀に蛮族に追われた北イタリアの人々が干潟に杭を打ち、その上に煉瓦造りの建物を造ったのが街の始まりだと言われている。ローマ帝国に属しながら、市民が実地的な自治権を持ち、敵に襲われにくい地勢を生かし交易・軍事の中心として栄える。建物・道路・橋の配置に計画はなく、その場その場の状況に応じて造り続けられてきた結果、迷路のような街が生まれた。人々が自然に「ヴォイドの空間」を求め、狭い空間に情報が詰まっている。ランドスケープの必要性を感じる本質がある。

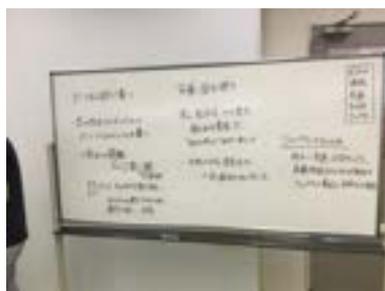
【ハンブルク】貿易の中心地、自由ハンザ都市として栄える。こちらも商人たちによる自治が行われた。美しさと実質性は文化歴史の裏付けから、整った街は現代都市ならではの計画性をもってヴォイドを作っている。本来は大きな建物が多く圧迫感があるはずだが、建物の間に広場を作るルールや、運河でヴォイドの空間を生み出している。

【パリ】華美で美しい建築様式でつくられた街。王や貴族の庭園だったものが解放されて庶民のものになった背景から、公共のものは楽しみであり生活の豊かさを感じられるものに

なった。「市民のための公的な空間を造ることを目指す」現在の公園の原型となっている。
生活の豊かさ＝ランドスケープアーキテクチャーとしての関係性を実感。

動画の中のたくさんの写真から生徒たちのイメージも広がったようです。街によって歴史やその背景からランドスケープも異なってくるがよくわかりました。

●リサーチブックの修正作業



生徒たちは動画を鑑賞し、これまでと違う視点からまちづくりについて考えることができました。それらを踏まえて引き続きリサーチブックの修正作業に取り掛かります。生徒同士や教員と意見を交換し、テーマである「コンパクトシティと空間デザイン」について、それぞれが担当するカテゴリーの原稿を読み返し、よりよい原稿に仕上げていきます。

2023年6月30日 SSD (高校3年生) 授業「武田先生のパネルディスカッションをきいて」

資料：ワークシート No.7

今回の講座は、高校1年生の SSS 授業で「魅力的なまちづくり」をテーマに実施したパネルディスカッションを動画でみて、まちづくりへの視野を広げます。



今日の講座
●パネルディスカッション (動画)
魅力的なまちづくりについて
考える

パネルディスカッションは、大阪公立大学 准教授の武田重昭先生と先生の研究室生、そして高校1年生がパネラーとして参加し、まちづくりについて生徒から寄せられた質問に対して意見を交換し、魅力的なまちづくりについて考えました。
パネルディスカッションのテーマ、ディスカッション内容のご紹介は6/9のSSSの記事で詳しくご報告しています。

〈動画を見たコメント〉

- ・地域でのつながり、コミュニケーションに対する認識について、世代によってギャップ（どれだけ大切にしたいか）があることを前提に考えている人が多い。
- ・人との交流なしでは災害時などに協力しあって乗り越えることができない。やはり人はひとりでは生きていけないため、住民との繋がれる環境づくりは必要。
- ・まちづくりにおいて一貫したやり方はあまり向いていないように感じた。まちづくりは個人の意見を尊重しつつ、地域共同体として市民全体がまとまっていく柔軟さが必要であると感じた。
- ・日常のあいさつや少しの会話でもそれが積み重なっていけば少しずつまちに変化がもたらされるのだと気づいた。
- ・海外と日本の経験に基づいて話す人が多くてわかりやすかった。
- ・そもそもの日本人がもつアイデンティティ、民族性が街のあり方において大きな要素となっている。日本の街の良いところもこれから考えていきたい。

2023年7月4日SSD（高校3年生）授業「リサーチブックの経過発表」

今回の講座ではリサーチブックの各パートの内容について皆の前でプレゼンし、先生や生徒たちから質問を受け、課題点を洗い出していきます。



今日の講座

- リサーチブックの経過発表
- リサーチブック完成に向けて課題点の洗い出し・意見交換

〈発表後のコメント〉

- ・ コンパクトシティがなぜ必要なのか、世界的なトレンドとしてコンパクトシティが取り上げられているので、リサーチ内容は日本に限定する必要はない。また、いくつかのまちを比べるときに、ある程度人口が同じ規模のまちを調べるとよい。
- ・ 全部一から調べるのではなく、知っていることとつなげて書くことも大事であり、質としてもよくなる。

先生や他のパートから出たコメントを踏まえて、リサーチブックの原稿を最終修正し、提出してもらいます。これまでに養ってきた知識やスキルを活かし、よりよいリサーチブックの完成を目指しましょう。



2023年9月5日～10月10日 SSD（高校3年生）授業 「個人レポートの見直し作業とグループワーク」



2学期の1回目のSSD講座は、夏休み中に帖佐教諭が訪れた、海外フィールドワーク候補地である北欧のデンマークとスウェーデンの視察報告で始まりました。これまでにコンパクトシティのまちづくりの事例として紹介されてきた北欧のまちの実際の景色、建物、交通、市場などの

様子や、現地の人々の暮らしやまちづくりの特徴について写真を交えて紹介しました。

帖佐教諭【海外フィールドワーク候補地の視察報告】

● デンマーク・コペンハーゲン

- ・コペンハーゲンは自転車政策に力を入れており、自転車専用の道路や、自転車が車よりも優遇されていると感じられる場面が多い。歩道や広場などには休憩できるようにベンチがたくさんある。人を大切にする暮らしが様々な場で見られる。
- ・アマーバッケ（コペンヘル）は、ごみ処理場の上にスキー場やカフェを作るという新しい試みで、敬遠されがちな公共施設をむしろシビックプライドを感じられる施設に転換している。
- ・洋上風力発電機は市民の出資で設置されている。
- ・コペンハーゲンの貸農園は借主が家を建てるなど自由な発想で利用できる。誰もが農園を楽しむことができるように工夫されている。



● スウェーデン・マルメ

- ・ウェストハーバー地区は再開発をして治安が改善した。都市計画デザインを工夫し、住む人が快適に生活できるようになっている。
- ・主にバス交通。外国人が多く住むまち。
- ・図書館は移民など外国人も利用しやすいように工夫されている。

● スウェーデン・ルンド



- ・David Sim 氏が都市計に携わる。
- ・小さいまちだが、広場に面したデザイン性の高い大学、図書館、美術館があり、地元のレストランやカフェも充実している。David Sim 氏のオフィスではお茶をしながらディスカッションする FIKA スタイルで訪問を受け入れてくれた。

生徒たちは写真を見たり、先生の話聞いて、「こんなまちに住んでみたい！行ってみたい！」と思った人がたくさんいたのではないのでしょうか。本来ならば高校2年生の春に

海外フィールドワークを実施する予定でしたが、コロナ禍で延期となり1年遅れの訪問予定となりました。これまで海外のまちづくりの事例について熱心に耳を傾け、学び、リサーチをしてきた生徒たちは、これから実際に現地を訪れてまちづくりについて見聞を深めることを楽しみにしています。

【2学期の授業の取り組み】

2学期は個人レポート見直し作業とグループワークを並行して進めていきます。講座の締めくくりとして、これまでに養われた知識やスキル、リサーチやプレゼンテーションの経験を最大限に活用して、持続可能なまちづくりに向けた課題の解決や政策の提言を発表できるように準備していきます。

● 個人レポートの見直し作業

これまでリサーチをして作成した個人レポートをグループ内で共有し、生徒同士で意見を出して改善点などを話し合います。また先生からフィードバックをもらって、修正と仕上げの作業に取りかかります。



● グループワーク

生徒たちが希望を出して割り当てられたグループに分かれ、それぞれのグループワークに取りかかります。

① 全国高校生フォーラム参加グループ

文部科学省の「2023 年度全国高校生フォーラム」への参加準備を行うグループです。このフォーラムは12月17日に東京国際フォーラムにてWWL及びSGHネットワークに参加する高校生が一堂に会し、日頃取り組んでいるグローバルな社会課題の解決方法や提案等をプレゼンテーションするとともに、生徒交流会にてディスカッションを行います。



このグループのメンバーは、同志社国際チームとしてSSD講座で取り組んでいる持続可能なまちづくりをテーマにさらに具体的なトピックを設定し、役割分担をして英語で発表、ディスカッション、ポスターセッション、研究内容のレポート作成の準備をします。

② 海外フィールドワークグループ

2024年3月に実施予定の海外研修についてリサーチをするグループです。候補地はデンマークとスウェーデンです。その国の都市計画、地理等の基本情報、まちづくり（交通やリサイクル等）について情報収集し、しおり形式で事前にレポートを作成します。



③ リサーチブック制作グループ

リサーチブックの構成、編集、仕上げをするグループです。タイトルの見直し、レポートの順序決め、参考文献の書き方の統一から入稿をするところまでの作業をします。



早速、グループ作業では個々に情報収集をして活発に意見交換をする様子が見られました。個人レポートやそれぞれのグループワークにおいて、まちづくりの課題解決や政策の提言に向けてどのような成果を出していけるか楽しみです。

2023年10月24日～11月4日 SSD（高校3年生）授業「グループワークおよび個人レポートの中間報告」

2学期の中盤、各ワークグループの代表者によるグループワークの進捗状況の報告と個人レポートの中間報告が行われました。先生からフィードバックをもらい、これからの取り組みに反映していきます。

【グループワークの中間報告】

① 全国高校生フォーラム参加グループ

グループで話し合っただけ決めたテーマを報告し、12月のフォーラムに向けて詳細を詰めている段階です。これまで学習してきたことを発展させ、それをどのようにまとめて発信するか。ひとつひとつの課題をクリアしていくことは難しくもあり、また楽しい時間でもあります。今後の取り組み、フォーラムでの発表に期待が膨らみます。



② 海外フィールドワークグループ

このグループのメンバーは来年3月に訪問予定のデンマークおよびスウェーデンの行先について調べ、その地域の事前学習に取り組んでいます。

11月末にフィールドワークの参加希望者を募り、6名の渡航が決まりました。グループの代表として、公共施設やまちの取り組みの視察、現地日本大使館訪問、現地校との交流など、またとない貴重な体験をしてもらいます。中間報告時に生徒たちは先生からアドバイスをもらい、より充実した研修旅行となるよう引き続き準備をしていきます。



③ リサーチブックグループ

このグループは、これまでに皆がリサーチしたレポートをまとめる大切な作業を担います。タイトルの見出しの整合性をとったり、調べた内容を分類ごとにまとめて編集していきます。また、引用した参考文献の書き方について先生のアドバイスをもらい、整理していきます。



【個人レポートの中間報告】

個人レポートの全体構成から細かい部分まで、ひとりひとり先生方からアドバイスをもらいます。どのような課題を提起し、どのような考察をしてレポートにまとめていったか、生徒たちが先生に熱心に説明していたことがとても印象的です。この後、先生方からのアドバイスに基づいて最終的な見直しや修正をし、レポートを仕上げていきます。



いよいよ今年度のSSD講座も終わりが近づいてきました。3学期のSSD講座は残り2回となります。3年間の講座の締めくくりとして、これまでに取り組んできた課題や政策の提案について発表をしてもらう予定です。

2024年1月23日 SSD（高校3年生） その他「全国高校生フォーラム参加報告」

3年生のSSD講座も残すところあと2回となりました。本日のSSD講座は、冬休みの間に開催された文部科学省と筑波大学共催の「2023年度全国高校生フォーラム」に参加したメンバーによる参加報告とプレゼンテーションを行いました。（フォーラムの詳細については [2023年12月17日の記事](#)参照）



発表のテーマは「どのようにしてシビックプライドを多文化共生コミュニティの中で構築していけるか」です。今日は多くの帰国生徒の前で発表し、高校生フォーラムで他校の生徒たちにプレゼンをしたときとはまた違う緊張感を感じているように見られました。また英語での発表に続いて日本語でも発表をしてもらうことによって、伝えたいことを考えて整理し、言葉を選ぶことの難しさと大切さを感じることができたのではないのでしょうか。

発表後にはクラス内で質疑応答の時間を設けました。「なぜ事例として CapeTown と Amsterdam が挙げられたのか？」や「テーマにある Multicultural Communities と、ケープタウンの事例にある Cultural Diversity の言葉の選び方に違和感がある。」など、同志社国際生ならではの質疑やコメントもあり、発表メンバーはそれに対してひとつひとつに対して真剣に考え、答えていたのがとても印象的でした。

全国高校生フォーラムでの発表とクラスでの発表を経て、発表したメンバーは良い刺激を受け、貴重な経験を得ることができました。今回発表をしなかった生徒もプレゼンテーションを聞き、質問をしたりコメントをすることでテーマについて共に考え、話し合う貴重な時間を持つことができたと思います。今後、新たにみつかった課題や関連したテーマについて考え、将来の研究につなげていってほしいと思います！



2024年1月30日 SSD（高校3年生）授業「個人レポートの完成と発表」

いよいよ3年生最後のSSD講座となりました。

これまで自分のテーマについて調べ、先生や生徒同士で話し合い、修正を重ねてきた個人レポートも完成間近となりました。これまでの積み重ねから、レポートにはひとりひとりの成長が見られます。今日はコミュニケーションセンターで3~4人のグループに分かれてレポートの発表をし、最終的なブラッシュアップをしました。また後半は代表の生徒3名がクラス全体の前で発表をしました。



● 個人レポートのテーマ

生徒ひとりひとりが選んだテーマに沿ってリサーチした内容をグループメンバーと共有し、質疑応答をしてお互いの研究成果について話し合いました。生徒たちが選んだテーマを一部ご紹介します。

- ・アニメはまちづくりの可能性を広げるのか
- ・すべての人が取り残されないまちにするには
- ・日本における異文化共生はどのように進められるべきか
- ・まちづくりにおける視覚的デザインの意義と可能性
- ・伝統文化の継承とまちづくり
- ・観光による地方創生の実現
- ・都市開発と放棄された空間の再利用：私有財産権とコミュニティの利益の調和
- ・政策としてのシビックプライドがもたらすまちづくりへの影響とは
～北欧諸国と日本を比較して
- ・イギリスのまちづくりから学ぶ日本のまちづくり
- ・日本における外国人技能実習生などの外国人住民にも暮らしやすいまちづくり
- ・中国政府による新型都市化政策と都市設計の関連性—上海市を例に
- ・デンマークの包括的アプローチから学ぶ住民と政府の在り方
- ・パブリックスペースの活用方法とマネジメント
- ・都市型農園が持続可能な社会の実現する可能性とこれを日本で実用化するにあたって
- ・起こりうる障害について
- ・BRTの先進都市クリチバ
- ・都市の進行に伴う将来の農業形態

次に、生徒3名の発表の内容を抜粋してご紹介します。

● 発表 「アイデンティティを活かしたまちづくり」



まちのアイデンティティとして、1) 日本の伝統文化のひとつであるけん玉と2) ウィーンにおけるクラシック音楽に注目しました。

はじめに、けん玉を市技として制定している山形県長井市の地域活性化について紹介します。市技とは伝統文化の継承と発展のために地域文化の創造と振興を促すために制定されているもので、長井市はけん玉を世界に広めてまちおこしを成功させた

都市として、2年連続で地域再生賞にノミネートされました。

けん玉を使ってまちを活性化させることに成功した理由として、市民がけん玉を自分たちのまちのアイデンティティとして誇りに思っていたこと、また過疎化やまちの衰退を懸念した行政が「長井けん玉のふるさとプロジェクト」を立ち上げ、そのプロジェクトの活動が認められたことなどが挙げられますが、老若男女誰でも楽しむことができ、適度な運動にもなるけん玉の魅力にも成功の理由があると考えます。

次に、クラシック音楽をアイデンティティとしてまちの活性化に成功しているウィーンのまちづくりにも注目しました。音楽の都としてのブランディングが観光客を引き寄せ、地域創生に繋がっているのではないかと考えます。

まちにとってのアイデンティティはそのまちに歴史的な深い関わりがあるものであり、現在愛されているものであっても衰退しているものであっても、それをうまく活用することによって多くのメリットがあると思います。衰退してきているものは伝統を守って継承できるという面もあります。それによってまちに活気があふれるので、アイデンティティを活かしたまちづくりは立派なひとつの形であると思いました。

● 発表 「都市型農園が持続可能な社会の実現する可能性とこれを日本で実用化するにあたって起こりうる障害について」

日本における新しい農業のあり方は、今後の持続可能な社会を形成していくにあたってさまざまな役割を実現することになるでしょう。この課題を解決する方法として都市型農園が挙げられます。

都市型農園のメリットとして、多様なまちのあり方に寄り添った形での農業を実現させるだけでなく、地産地消の促進、大量生産ができなくても鮮度が高いものをすぐに届けられること、まちの中に緑があることによってヒートアイランド現象の緩和など様々な効果も期待されています。また農園を地域住民の交流の場としても活用することができます。



日本ではまだまだ都市型農園の知名度が低く、その概念が一般的に普及していない原因として、法律によるその定義や目的が明確に定義されていないこと、色々な手続きが煩雑でNPO や市民、企業が農園を始めるためのハードルが高いことが考えられます。また固定資産税の支払いなど、資金が必要となるのでお金がないと始められないというハードルもあります。

都市型農園のさかんなドイツでは、連邦クラインガルデン法というものが制定されており、農園の定義がわかりやすく、理想的な活用方法が定められています。都市型農園にはいろいろなアドバンテージがあり、日本でも考えていけない形だと思います。しかし実現化にはいろいろ問題があり、始める人が少ないということがあるので、まずは都市型農園に関する法制度を見直して、定義を作り、土地の提供者も利用者も安心して利用できるようにすることが大切だと考えました。

● 発表 「まちづくりにおける視覚的デザインの意義と可能性」



私は法隆寺の近くに住み、周囲は歴史的な街並みがあるところで暮らしていますが、ある時突然ピンク色の家が建ち、違和感を感じました。そこで視覚的なデザインを通して市民にとって豊かで素敵なまちはなんだろうということを考察しました。

まちづくりの中で視覚的なデザインをする意義として、ひとつはまちの画一化が挙げられます。その街

特有の素材やその街の歴史に即したデザインの使用や、その時代の土木技術などによって、まちの魅力や個性をより引き出すことができると感じました。

もうひとつの意義は、現代の都市環境の設備をまちづくりにより活かすことができる点です。例えば、広島市環境局中工場はとてもきれいなガラス張りの建物で、イベントや結婚式の撮影会場としても使われるなど、ごみ処理場からは想像できない、市民にとっての豊かな建物となっています。都市環境の設備は見た目を少し変えることでまちとしての個性を出すことができると考えます。

最後に挙げられるのは、施設や空間を豊かにして快適な生活を実現することができる点です。例として、病院で取り入れられているホスピタルアートがあります。気持ちが沈みがちな患者さんが気持ちよく過ごせるようにしようという取り組みで、無機質になりがちな病院の空間に明るさをもたらしてくれる要素でもあります。病院だけではなく、老人ホームなどでも取り入れることによってよりよい空間作りができるのではないかと感じました。

次に、視覚的なデザインの中で色彩と建築デザインについて考えました。色彩については、派手なものではなくても、奈良では青垣のみどりを尊重し、奈良の風土に合わせた色彩景観、まちづくりが行われています。また、サンフランシスコのペインテッド・レイディズの街並みの事例では人々によって住宅の色が塗り替えられ、まちを元気づけるムーブメントが起

きて、今のサンフランシスコの街並みができたといわれています。

また建築デザインによって存在感を高めたり、デザインを通して交通や施設などそのものに興味をもつことができます。例えばごみ処理場などの好まれづらい施設であっても、デザインによっては入りやすくなり、市民の憩いの場となりえます。

このように視覚という人間の大きな情報源を利用し、街をデザインしていくことによって、現代の環境をより豊かな場所へ導くことができます。都市デザインには無限の可能性が秘められていると考えます。

【発表を終えて】

発表では、ひとりひとりの生徒が持続可能で明るい未来を築いていくための提案や自分たちの思いを共有してくれました。発表の内容から、これまで自分のテーマについて一生懸命取り組んできたことが伝わってきました。また他の生徒の発表を聞くことによって、これまでになかった気づきや新たな発見もあったと思います。

SSD 講座での学びは、持続可能で豊かな暮らしを実現するためのまちづくりにひとりひとりが参加していくための大切な学びの時間となりました。高校を卒業して、それぞれの進路先へ進む生徒たちですが、この講座で学び習得したことや培った経験をこれからの活かして、新たな環境においても大いに活躍してくれることを願っています！

● グループワークの報告

【リサーチブックの完成】

これまでグループでコンパクトシティのデザインをテーマに取り組んできたリサーチブックが完成しました。タイトルは「コンパクトシティと空間デザイン」です。生徒たちが取り組んだ研究の成果を1冊の冊子にまとめられたことで、生徒たちは大きな達成感を得ることができました。この経験を将来の学びにつなげていってほしいと思います。



【北欧フィールドワークに向けた準備】

海外フィールドワークグループの事前学習として、福祉社会デザイン学部の矢野拓洋先生をお迎えして、「デンマーク・スウェーデンのまちづくり」のセミナーを行いました。矢野先生の専門は建築ですが、先生はデンマークの社会や教育についても研究されており、先生のお話から、これから訪問する国のまちづくりや政策について理解や知識を深めることができました。3月下旬の北欧訪問が楽しみです。

2024/03/19-27 SSD 海外研修 Denmark & Sweden (高校3年生)

2024年3月、欧州フィールドワークを実施しました。参加者はSSD受講者6名です。まちづくり先進国でもある2国を訪問し、人々の取り組みや暮らしの様子を丁寧に自分たちの目で見て確認し、現地の方たちとの温かい交流もありました。これまでの3年間の講座での学びの集大成となる研修となりました。

【訪問国1 デンマーク】



デンマークの首都コペンハーゲンは、環境に配慮する精神が根付くサステイナブルな街として注目されています。歴史的な町並みが保存されるなど古いものを大切にしながらも、最先端のシステムを取り入れ自然エネルギーの活用など世界初のカーボンニュートラルな首都を目指しています。デンマークの高校生との交流では、自己決定を重視する教育と、そこから生まれる幸福度の高さについて知り、考える良い機会となりました。在デンマーク日本大使館では、レクチャーもしていただきよりデンマークについての理解も深まりました。様々な人々との出会いにより、大変有意義な訪問となりました。

チボリ公園 首都コペンハーゲンのまちの中心的存在でもあり、人々の憩いの場所 **公共交通機関** コペンハーゲンの地下鉄の開業開始は2002年、24時間無人運転 **Cykelstangen** コペンハーゲンでは自転車通勤・通学の交通手段の約50%を占め、自転車専用的高速道路がある **Harbour Bath** 運河をきれいにしにつくられ、現在は屋外プールとして利用 **Torvehallerne** 地産地消の屋内型オーガニックマーケット
在デンマーク日本大使館 生徒たちの多くの質問に答えられました **Slorthaven Gymnasium** デンマークの公立高校 **コロニーガーデン** 家族と楽しみながら自由にゆっくりと週末を過ごすための、デンマーク発祥の郊外家庭菜園 **Absalon** 使われなくなった教会を改修してつくられた市民のための公共施設、誰かとの食事が孤独を減らすというコンセプトで行われるローカルなコミュニティダイニングで日々の催しも充実 **ØsterGRO 農場** 失われた緑を屋上で蘇らせるという興味深い取り組みを行う住民のコミュニティファーム、レストランも併設しており朝食をいただく **Copenhill** 共生型プロジェクトの1つ世界一楽しい廃棄物発電所兼スキー場 **洋上風力発電所** デンマークでは1891年より創始気候変動対策、小規模分散型エネルギーシステムへの移行、クリーン・エネルギー分野にて政界の最先端を走ってきた。その主軸が洋上風力発電で国内のほぼ50%の電力総消費量をまかなう **Strøget** 歩くことを意味する、世界初の歩行者天国。有名店も多数出店 **Det Kongelige Bibliotek** デンマークの建築家が手掛けブラックダイヤモンドと称される図書館

【訪問国2 スウェーデン】



Lund 大学 北欧屈指の名門校。広く開放感のある敷地は植物園をはじめ庭園のようなスペースが点在し街の雰囲気を作り出す。 **Lund 大聖堂** 北欧最大級のロマネスク様式の教会。石造りの外壁はルンドの街の象徴的 **Westhaven 再開発地区** エネルギー100%自給、未来に向けた環境先進地区 **Malme 市立図書館** スウェーデンには魅力的な図書館が多くある中でも美しい外観と快適な空間で市民の憩いの場の一つ

スウェーデン第三の街マルメは、デンマークのコペンハーゲンとエーレスンド海峡を挟んで電車で40分ほどの距離にある街です。スウェーデンでは『Soft City』『北欧のパブリックスペース』などの著者、David Sim 氏ご本人によってルンド、マルメをレクチャー付きで案内していただくという大変貴重で贅沢な機会をいただきました。Sim 氏のオフィスにもお招きいただきました。市民の憩いの場でもありつつとても洗練された図書館なども印象に残りました。著書にもあった北欧のパブリックスペースについて、「自然環境に配慮し、個人の自由に寛容で、人間中心の包括的な発想でデザインされた空間」を体現することができました。大変充実した忘れられないプログラムとなりました。

